

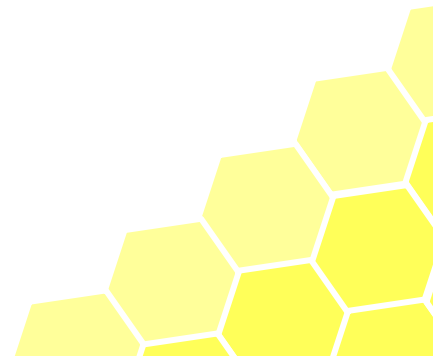
養蜂をめぐる情勢（補足資料）

1. 令和7年度養蜂等振興強化推進事業の取組について
 - （1）養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）の取組・・・・・・・・・・ 1
 - （2）養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業）蜜源植栽事例・・・・・・・・ 2
 - （参考）養蜂における重点支援交付金の活用事例・・・・・・・・・・ 7

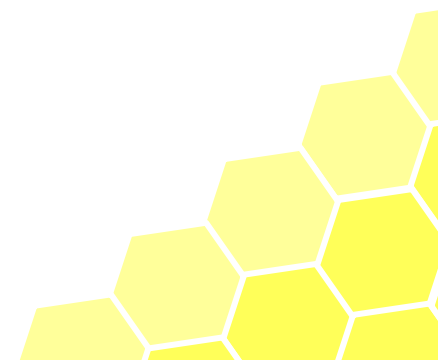
2. 令和8年度養蜂等振興強化推進事業の取組について
 - （1）令和8年度養蜂等振興強化推進事業の概要・・・・・・・・・・ 8
 - （2）花粉交配用蜜蜂安定供給のための蜂群管理技術の実証・普及・・・・ 9
 - （3）耕種農家と養蜂家の連携によるレンゲの定着支援・・・・・・・・ 10
 - （4）令和8年度園芸関係者向け勉強会、全国会議の開催について・・・・ 11
 - （参考）園芸産地と養蜂家の連携事例について・・・・・・・・・・ 12
 - （5）園芸農家における蜜蜂の適正管理技術等の実証について・・・・ 13

3. 花粉交配用蜜蜂不足に備えた体制整備について
 - （1）花粉交配用蜜蜂不足に備えた体制整備について・・・・・・・・・・ 14
 - （2）花粉交配用蜜蜂不足に対する産地での対応策・・・・・・・・・・ 15

令和8年8月
農 林 水 産 省



1. 令和7年度養蜂等振興強化推進事業 の取組について



(1) 令和7年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）の取組

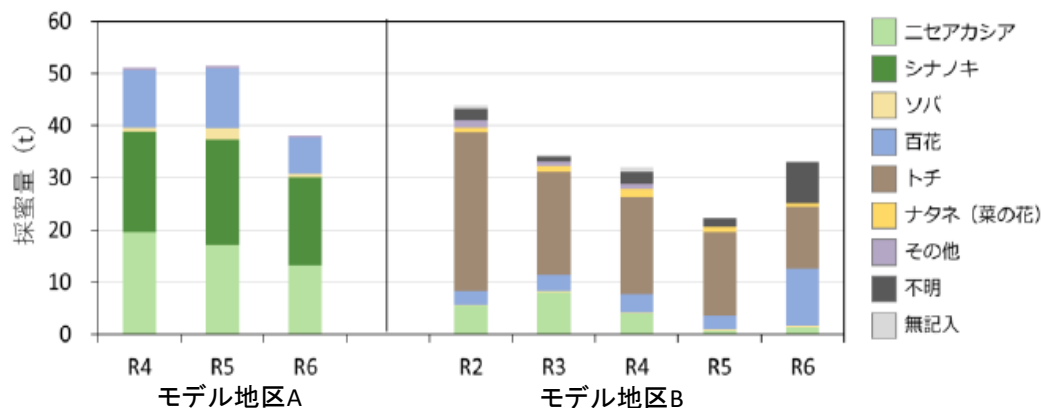
蜂群配置調整の円滑化を図るには、調整の必要性や根拠に理解を得るためのデータが必要

適正な蜂群配置調整の参考となる次の取組を支援。

- ①優良事例の調査・分析
- ②蜜源植物の位置や植物の種別、蜂群の位置情報をはじめとする関連データを蓄積・活用するための検討会の開催や地図データの作成



〈養蜂に関する各種データの関連分析事業〉



表：蜜源植物ごとの際蜜量の年次変動

【取組】

- ・地域ごとの飼育群数や採蜜量、地図データ、気象データ等の相関解析を実施。
- ・モデル地区の地域特性や採蜜効率の地域間差が認められ、気象条件や蜜源の分布との関連が示唆された。

【今後に向けて】

- ・地域差の相関を明らかにするには、
 - ①データ解析対象の拡大
 - ②継続的な動向の把握が重要。
- ・また、モデル地区間のデータ量の差異が課題。

★配置調整の根拠となるデータを作成するには、各都道府県からのデータ提供が不可欠です。ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例①— 1

事業実施主体：鹿児島県養蜂振興推進協議会
(構成員：鹿児島県、鹿児島県養蜂協会)

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・草本(12.5ha):レンゲ(375kg)
- ・樹木(0.43ha):ソヨゴ(メス木)(304本)
ミモザ(170本)

2 植栽地の確保

事例1

蜜源植物の植栽・管理
(曾於市笠木地区、枕崎市田布川地区)

- ▷ 当協議会の構成員が蜂場のある地区コミュニティ協議会の賛同を得て、管理する荒廃農地にレンゲを植栽
 - ・曾於市笠木地区 レンゲ(2ha)
 - ・枕崎市田布川地区 レンゲ(3ha)
- ▷ レンゲを活用した荒廃農地の保全には、畦畔の除草作業等管理が必要なことから、当協議会と地区コミュニティ協議会で業務委託契約を締結し、適正管理を委託。
- ▷ 植栽作業の実施者
地区コミュニティ協議会の会員(農家)

事例2

養蜂家と耕種農家の連携による蜜源植物の定着化
(薩摩川内市東郷町山田地区、水引町小倉地区)

- ▷ レンゲの定着化を図るため、水稻の裏作としてレンゲを植栽
 - ・薩摩川内市東郷町山田地区 レンゲ(6ha)
 - ・薩摩川内市水引町小倉地区 レンゲ(1.5ha)
- ▷ これまで農家の協力を得て、水稻の裏作として播種してきたが、レンゲの種子が熟す前にすき込みされることが多かった。そこで耕種農家等と連携し、すき込みを遅らせることでレンゲの定着化(次年に自然発芽)を目指す実証に取り組む。
- ▷ レンゲを定着化させるには、アルファルファタコゾウムシ対策等の除草作業等管理が必要なことから、当協議会と耕種農家等で業務委託契約を締結し、適正管理を委託。
また、耕種農家等と調整し、すき込み時期を地域慣行よりも遅らせ、レンゲの定着化を目指した実証ほを設置
- ▷ 植栽作業の実施者
耕種農家等

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例①－2

事業実施主体：鹿児島県養蜂振興推進協議会
(構成員：鹿児島県、鹿児島県養蜂協会)

2 植栽地の確保

事例3

蜜源植物の植栽・管理(薩摩川内市東郷町)

- ▷ 当協議会の構成員が住んでいる(蜂場のある)地区コミュニティ協議会の賛同を得て、地区コミュニティの会員の土地に樹木を植栽
 - ・樹木(0.29ha):ソヨゴ(メス木)(160本)
ミモザ(160本)
- ▷ 樹木について、これまで協議会構成員の土地に植栽するケースが多かったが、新たな植栽地の確保に苦慮。そこで、協議会構成員が自分の住んでいる(蜂場のある)地区コミュニティ協議会と連携し、これまでにない規模の植栽地を確保
- ▷ 当協議会、構成員、地区コミュニティ協議会の三者で合意書を締結し、備品である樹木の適正管理を担保
- ▷ 植栽作業の実施者
地区コミュニティ協議会の会員

3 蜜源としての利用可能時期

【草本】

レンゲ:令和8年4月～5月

(熟したレンゲの種子が落ちれば、複数年の利用が可能)

【樹木】

ソヨゴ(メス木):5月～6月

ミモザ:3月～4月

(ある程度の利用には数年以上かかる見込み)

4 補助事業を活用した所感

- ▷ レンゲの定着化の難しさ
 - ・枯熟期にすき込みを行えば、レンゲの定着化につながると思われるが、水稻の置かれている現状とレンゲの定着化は相関関係にないのではないかと。
 - ・担い手に集約されつつある水稻作付けは、普通期栽培でも3月から計画的にすき込みが始まってきており、地域の兼業農家もその影響からすき込みが早進化している。
 - ・夏場の高温障害対策で、普通期栽培でも早進化して田植えをする品種への移行が進みつつあり、併せてすき込みも早進化している。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例②

事業実施主体：岡山県養蜂組合連合会^{とまだ}苫田養蜂組合協議会

（構成員：岡山県養蜂組合連合会、岡山県養蜂組合連合会苫田養蜂組合、株式会社山田養蜂場、岡山県農林水産部畜産課、岡山県鏡野町産業観光課）

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・樹木(1,836㎡)： ヤマザクラ、トチノキ、ソゴゴなど、蜜源や花粉源となりえる樹種を中心に23種類(7,400本)

2 植栽地の確保(岡山県苫田郡鏡野町馬場)

協議会の取組に賛同した土地所有者から提供された、利用見込みのない土地に植栽。

- ▷ 植栽前の土地の利用状況
 - ・原野未利用地、耕作放棄地
- ▷ 植栽作業の実施者
 - ・協議会構成員である養蜂家と企業
 - ・一般のボランティアなど
 - （合計234名が参加）



3 蜜源としての利用可能時期

【樹木】

令和12年頃から利用開始見込み



（植樹後の様子）

4 補助事業を活用した所感

- ▷ 苗木調達から造成工事に至るまでの準備がスムーズに行えたことで、植樹を計画通り実施できた。
- ・状態の良い苗木を確保することができた。
- ・苗木の活着に必要な基盤整備を十分に行えた。
- ・一般ボランティアが安全かつ円滑に植樹作業に従事できる環境を整備できた。
- ・公的な支援を受けることで、養蜂家と企業と地域が連携して自然環境を次世代へ繋ぐことができた。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例③

事業実施主体：長野県蜜蜂協議会

（構成員：長野県養蜂協会、一般社団法人 長野県畜産会、養蜂家、長野県農政部園芸畜産課）

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・樹木(2ha)：ニセアカシア(400本)
ヤマザクラ (400本)

2 植栽地の確保(飯田市)

養蜂家が所有している土地への植栽に際し、周囲の賛同を得て実施し、蜜源の少ない山林を充実した蜜源として活用することができた。

特にニセアカシアの植栽については、慎重に進めた上で隣接している土地所有者の同意書を取り事業の実施に至った。

- ▷ 植栽前の土地の利用状況
 - ・山林
- ▷ 植栽作業の実施者
 - ・樹木 委託業者
- ▷ 獣害防護筒の設置者
 - ・協議会構成員である養蜂家



獣害防護筒の設置

3 蜜源としての利用可能時期

【樹木】

- ・ニセアカシア
植栽してから数年
後に利用開始見込み
- ・ヤマザクラ
ニセアカシアより
さらに年数がかかる
見込み



ニセアカシア
(ピンクテープ)



ヤマザクラ
(青テープ)

4 補助事業を活用した所感

▷ メリット

- ・多くの蜜蜂を飼養する長野県にとって蜜源の確保は貴重であった。
- ・補助は定額であったので取り組みやすかった。
- ・蜜源の確保とともに養蜂振興に係るイベントを開催し、国産ハチミツの普及啓発につながった。
- ・養蜂家の生産意欲の向上につながった。

▷ その他

- ・補助事業に取り組むにあたり、補助事業の知識や経験があるとさらに円滑に事業を進められると思われた。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例④

事業実施主体：宮城県養蜂推進協議会

(構成員：宮城県、富谷市、丸森町、宮城学院女子大学、
宮城県養蜂協会、養蜂家)

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・草本(47,971㎡)：イエローマスタード(32,206㎡)
キザキノナタネ(9,765㎡)
ラベンダー(6,000㎡)
- ・樹木(9,765㎡)：ヤマザクラ(40本)
* キザキノナタネと同所

2 植栽地の確保(丸森町、富谷市)

丸森町に於いては、協議会の取組に賛同した土地の所有者の協力により、農家の担い手不足のため利用見込みのない土地を植栽に活用。

富谷市に於いては、市が指定管理している市の施設内に養蜂家が所属している団体が植栽。

- ▷ 植栽前の土地の利用状況
 - ・休耕地、耕作放棄地
 - ・自治体所有地
- ▷ 植栽作業の実施者
 - ・協議会構成員である養蜂家、大学生
 - 地域ボランティア

3 蜜源としての利用可能時期

【草本】

- ・イエローマスタード、キザキノナタネ
令和8年4月頃
- ・ラベンダー
令和8年5~7月頃
(ラベンダーは多年草で5年程度は継続利用可能)

【樹木】

- ・令和12年頃から利用開始見込み

4 補助事業を活用した所感

- ▷ 蜜源の少ない宮城県において、蜜源の増殖はミツバチの育成に役立っている。
- ▷ 地域の方々に有償ボランティアとして協力をお願い活動を進めている。そのため植栽地の管理は養蜂の繁忙期と重なるが、順調に管理を進められている。
- ▷ 富谷市では、植栽や管理作業をイベント化して活動を行っている。そのために地域の方々のうち特に子供たちに養蜂に関する情報提供ができ、養蜂に対する理解が深まっていると思う。

〈参考〉養蜂における重点支援交付金の活用事例

栃木県(畜産)

事業名：養蜂経営安定化物価高騰緊急支援事業費

予算額：1,969千円

概要：飼料や薬剤価格の高騰により影響を受ける
養蜂家に対し、資材購入費用を補助
(定額：187円/群)

対象蜂群数：令和7年蜜蜂飼育計画の届出群数

山形県(園芸)

事業名：さくらんぼ結実確保緊急支援事業

予算額：88,000千円

概要：マメコバチの減少等により、さくらんぼの結実が
不安定となっていることを踏まえ、結実確保に
向けて、さくらんぼ農家に対し、マメコバチの不足
を補うミツバチの導入費及び輸入花粉の購入を
補助(1/2)

事業対象期間：令和8年4月実施の蜜蜂導入

熊本県(畜産)

事業名：蜂群増殖緊急対策事業

予算額：26,250千円

概要：物価高騰により暑熱及び衛生対策に苦慮する
養蜂家に対し、飼育箱購入を補助(1/2)

事業期間：令和7～8年度

熊本県(園芸)

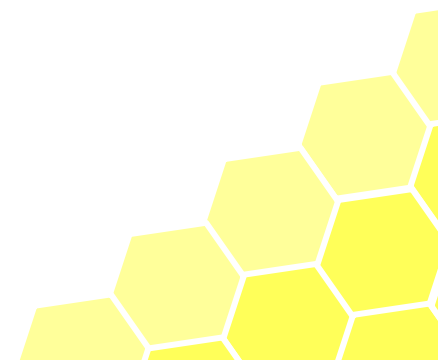
事業名：花粉交配用昆虫確保緊急対策事業

予算額：12,000千円

概要：生産資材費等が高騰する中で、花粉交配昆虫
を緊急的に確保するため、花粉交配用昆虫の
適正管理に必要な資材導入や代替昆虫導入等
の取組みを支援(1/2以内(上限補助額：
500千円/団体))

事業期間：令和7～8年度

2. 令和8年度養蜂等振興強化推進事業 の取組について



(1) 令和8年度養蜂等振興強化推進事業の概要

令和8年度予算概算決定額 222百万円(前年度219百万円)

<対策のポイント>

養蜂振興のため、蜜源植物の確保や植栽状況の実態把握、蜂群配置調整の適正化やダニの防除手法を中心とした飼養衛生管理技術の普及に向けた取組を支援します。また、花粉交配用昆虫の安定確保を図るため、園芸産地・養蜂家・花粉交配用昆虫（マルハナバチ、ヒロズキンバエ等）メーカーの連携や在来種マルハナバチの利用拡大、健全な蜂群の供給に向けた技術導入の取組を支援します。

<事業目標>

- 蜜源植物の植栽面積拡大や適正な蜂群配置調整、ダニ被害低減による蜂群数増加（21万5千群〔令和元年度〕→30万群〔令和11年度まで〕）
- セイウオオマルハナバチから在来種マルハナバチへの転換の加速化

<事業の内容>

1. 蜂群配置調整適正化支援

- ① 蜂群配置調整の適正化に向けた環境整備のため、樹木を中心とした蜜源植物の植栽・管理等の取組、耕蜂連携による蜜源植物の定着化に向けた実証を支援します。
- ② 適正な蜂群配置調整の参考となる蜜源植物の位置や種別、蜂群の位置情報等の関連データを蓄積・活用するための検討会の開催や地図データの作成を支援します。また、飼育届に付帯する蜜源・採蜜成績等をデジタルデータ化し、蜂群数、気象等との相関を分析する取組を支援します。

2. 花粉交配用昆虫の安定確保支援

- ① 園芸産地が安定的に受粉を行えるよう、花粉交配用蜜蜂の現状や花粉交配用昆虫の適切な利用方法等の理解を促すためのセミナー開催を支援します。
- ② 園芸産地において、養蜂家等と連携して花粉交配用昆虫を安定的に確保・利用するための計画の作成や蜜蜂の適切な管理技術、蜜蜂以外の昆虫による受粉技術の実証等を支援します。また、特定外来生物であるセイウオオマルハナバチから在来種マルハナバチへの転換実証を支援します。
- ③ 養蜂家による花粉交配用蜜蜂群の供給体制を強化するための蜂群の低温管理技術の導入や冬期間の管理技術の実証などの取組を支援します。

3. 飼養衛生管理技術向上支援

ダニの防除手法を中心とした飼養衛生管理、暑熱ストレスや労働負担を軽減する新たな巣箱の開発実証、蜜蜂の飼養管理の高度化のための技術の普及などの取組を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

養蜂等を取り巻く課題

- 蜜源植物の植栽面積が減少傾向で推移する中、蜜蜂の飼養戸数は趣味養蜂の普及もあって増加しており、一部では飼養者間での蜂群配置に関するトラブルも発生。
- 農薬や熊による被害を避けるよう蜂群の飼養場所に変更の必要が生じても、十分な蜜源を確保することが困難。
- 都道府県による適正な蜂群配置調整を求める声が高まる中、県等が蜜源植物の植栽の状況や蜂群の配置に関する詳細な情報を把握できる仕組みの整備が必要。
- 近年の天候不順等により花粉交配用蜜蜂の供給が不安定な傾向にあることから、園芸産地と養蜂家等の連携による花粉交配用昆虫の安定確保が必要。
- 施設トマト等の花粉交配に利用されているセイウオオマルハナバチは平成18年に特定外来生物に指定されており、平成29年には「セイウオオマルハナバチの代替種の利用方針」を定めており、在来種マルハナバチへの転換加速化が急務。
- ダニ被害軽減のため、ダニ駆除剤の適正使用等、飼養衛生管理の高度化が必要。
- 養蜂家の高齢化や人手不足などが進展する中で、省力化のための技術普及が必要。

養蜂等振興強化推進事業の実施による課題の解決

事業実施により目指す姿

- 蜂群配置調整の適正化による蜜源の有効利用
- 養蜂家の所得増加と地域の活性化
- 花粉交配用昆虫の安定確保による施設園芸の体制強化
- 蜜蜂の飼養衛生管理技術の向上等による養蜂経営の安定

【お問い合わせ先】

(1、2③、3の事業) 畜産局畜産振興課 (03-3591-3656)
(2①、②の事業) 農産局園芸作物課 (03-3593-6496)

(2) 花粉交配用蜜蜂安定供給のための蜂群管理技術の実証・普及

- 花粉交配用蜜蜂安定供給のための蜂群管理技術として、令和7年度養蜂等振興強化推進事業において、蜂群の低温管理による産卵停止技術及び改造トラックを利用した蜜蜂への輸送負担の低い転飼技術について実証試験を実施したところ。
- 令和8年度養蜂等振興強化推進事業においては、蜂群の低温管理による産卵停止技術のフィールド実証及びリーファーコンテナトラックを用いた蜜蜂長距離輸送時のデータ収集により、地域性を踏まえた実証や安全性の高い技術の確立を支援。
- また、強い農業づくり総合支援交付金において、令和8年度～9年度にかけて蜜蜂の低温管理のための大型冷蔵倉庫を整備予定。

1 蜂群の低温管理による産卵停止技術(ダニ対策)

(1) 技術の概要

- ✓ 蜂群を低温管理(15℃以下、1ヵ月以上)することにより、女王蜂が産卵を停止し、一時的に巣箱内の蜂児(幼虫)を減少させることで、蜂児に寄生するダニの増殖を抑制する技術。
- ✓ ダニの増殖が抑制された状態で、ダニ駆除剤を投与することで、より効果的な防除効果を期待。

(2) 令和8年度の支援

- ✓ 蜂群の低温管理による産卵停止技術の実証
全国3カ所で、リーファーコンテナ冷蔵庫等を利用したフィールド実証を実施予定。
①北海道、②広島県、③香川県
- ✓ 蜂群の低温管理のための大型冷蔵倉庫の整備
熊本県において強い農業づくり総合支援交付金を活用



写真:リーファーコンテナ
冷蔵庫における
蜂群管理の様子

2 蜜蜂への輸送負担の低い転飼技術(損耗防止対策)

(1) 技術の概要

- ✓ 転飼において、トラックによる蜜蜂の長距離移動の際、外気温や蜜蜂の活動の活発化により、巣箱内の温度が上昇し蒸殺が生じる。
- ✓ 庫内の温度管理が可能なリーファーコンテナや冷房機能を搭載した改造トラックによる蜜蜂輸送技術により、蒸殺や2024問題への対応を図る。

(2) 令和8年度の支援

- ✓ 蜜蜂への輸送負担の低い転飼技術
全国4カ所でリーファーコンテナトラックを用いた長距離輸送時のデータを収集予定。
①岐阜県 ⇒ 北海道、②和歌山県 ⇒ 北海道
③熊本県 ⇒ 北海道、④北海道 ⇒ 熊本県

(3) 耕種農家と養蜂家の連携によるレンゲの定着支援

- 令和7年度養蜂等振興強化推進事業から、新たに養蜂家と耕種農家が連携して、蜜源・緑肥作物として活用できるレンゲの定着化に向けた取組に対する支援メニューを追加。
- 同一地域に対し、最大3年間の取組への支援が可能であり、令和7年度は福島県、長崎県、熊本県、鹿児島県の4カ所で実施。令和8年度は、令和7年度から実施の4カ所に広島県を加えた5カ所で本メニューを実施。

1 取組の概要

- 水田裏作の緑肥として利用され、蜜源としても非常に人気が高いレンゲは、温暖化の影響による水田耕作時期の早期化等により、開花時期が終わる前にすき込まれてしまい、蜜源としての利用が困難。
- 一方で、レンゲは種子が成熟する黄熟期以降にすき込みを行うことにより、種子が圃場にこぼれ落ち、次の水稻収穫期に自然発芽するため、圃場に定着し、種子代の節約だけでなく、継続的な緑肥としての利用が期待される。
- そこで、地域の養蜂家と耕種農家が連携し、レンゲの青刈り防止や土壌分析等定着化のための実証の取組を最大3年間支援。

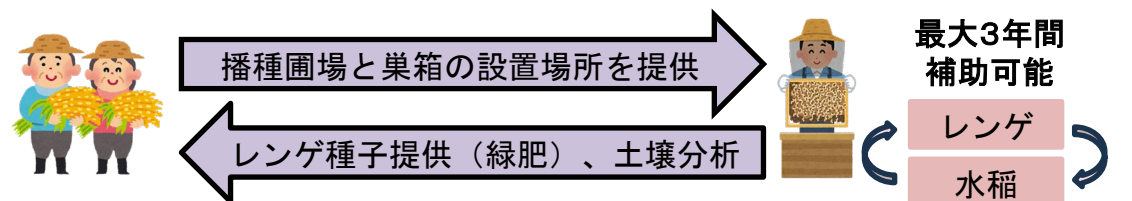


図1 養蜂家と耕種農家の連携

2 鹿児島県の実証事例(令和7～9年度)

- 取組の概要
 - ✓ これまで耕種農家の協力を得て、水稻の裏作としてレンゲの播種をしてきたが、レンゲの種子が熟す前にすき込みされることが多かった。
 - ✓ そこで、耕種農家と連携しすき込みを遅らせることでレンゲの定着化(次年に自然発芽)を目指す実証に取り組む
 - ✓ 耕種農家等と調整し、すき込み時期を地域慣行よりも遅らせ、レンゲの定着化を目指した実証圃を設置。
 - ✓ 県内2地域において、3年間で合計16.5haの圃場で実証を行う予定。

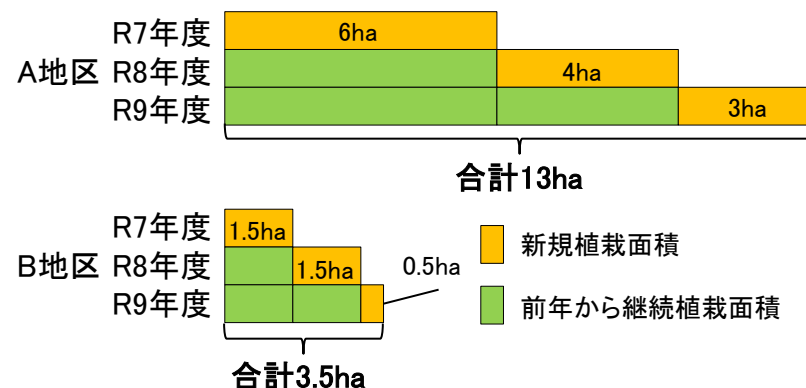


図2 レンゲ定着化

(4) 令和8年度園芸関係者向け勉強会、全国会議の開催について

- 各産地の園芸農家に、全国的な蜜蜂不足の現状や産地における不足発覚時の対応事例、代替昆虫の活用等の理解を深めるため、都道府県、市町村及び農協等を対象に、全国3ヶ所(北海道、広島県、福岡県)で園芸作物の安定生産に向けた花粉交配用昆虫に関する勉強会を開催予定。
- また、花粉交配用蜜蜂の供給可能数量の見通しがある程度判明する9～10月頃に、(一社)日本養蜂協会、代替昆虫メーカー、行政担当者等を参集し、今冬以降の花粉交配用蜜蜂の供給見通し等に関する情報交換を行う全国会議を栃木県で開催予定。

<開催日程>

開催場所	日程
北海道(勉強会)	6/22(月)～23(火)
広島県(勉強会)	8/3(月)
福岡県(勉強会)	9/1(火)～2(水)
栃木県(全国会議)	9～10月頃

<勉強会の主な内容>

- 農林水産省、千葉大学からは
 - ・蜜蜂不足の現状と対策
 - ・蜜蜂の増殖や代替昆虫にかかる基礎情報等を説明。
- 都道府県、農協、養蜂家等からは、
 - ・産地と養蜂家の連携事例
 - ・不足発覚時の対応
 - ・蜜蜂管理に係る留意点 等を説明。

6/22,23勉強会in北海道
(約150名が参加)

メロンを中心に、
蜜蜂の適正管理に資
する産地と養蜂家の
連携事例や、
蜜蜂と代替昆虫の併
用方法等
について情報提供と取
組見学を実施。



講演の様子



現地視察の様子(ハウス)



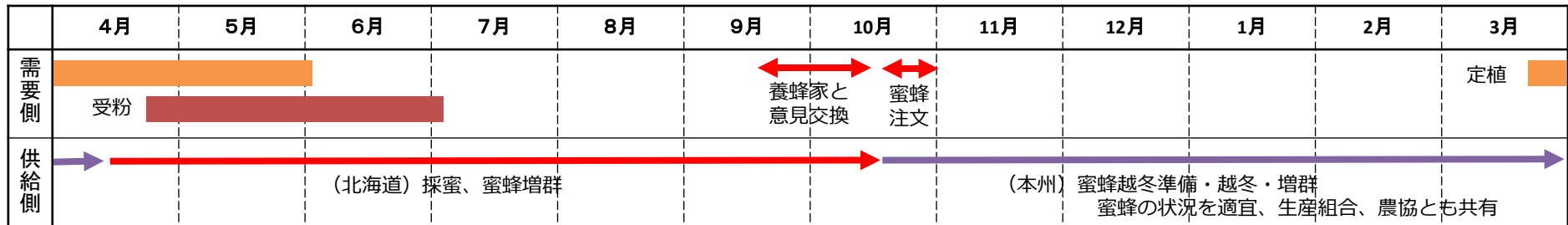
現地視察の様子(養蜂場)

(参考) 勉強会の情報提供例

園芸産地と養蜂家の連携事例について（北海道・メロン）

- 園芸作物における花粉交配用蜜蜂の安定確保のために、園芸農家と養蜂家が連携した取組（毎年の意見交換、早期注文、園芸農家によるメンテナンス等）を紹介。

1年の流れ



連携の取組

《意見交換・早期注文》

- ・毎年、養蜂家が北海道にいる9月末～10月中旬に、養蜂家、農協、生産組合の執行部が集まり、蜜蜂の管理状況、供給動向や価格等について意見交換。
- ・生産組合を通して農協から養蜂家に必要群数を10月下旬に注文。

《園芸農家におけるメンテナンス》

- ・従来は巣箱の交換等のメンテナンスを養蜂家が行う「短期リース」であったが、意見交換を通じ、交配用蜜蜂のメンテナンスが養蜂家の負担となっていることが判明したため、令和2年からは園芸農家が蜜蜂のメンテナンスを行い、巣箱を交換せず、長期利用する「長期リース」を試行的に開始。
- ・養蜂家・生産組合・農協で蜜蜂管理の方法を決め、交配用蜜蜂の取扱いに係る通知を発出し、講習会を行ったことで、現在では8割程度が「長期リース」に移行。

取扱通知記載内容例（蜜蜂管理の方法）

《巣箱管理》

- ・ハウス各棟での受粉期間をずらしているため、受粉期間外の天気のいい日に巣箱をハウス外に出し、女王蜂の産卵を促す。
⇒自然界の植物の花粉を栄養源として確保できるため、貸与時よりも返却時の方が蜜蜂が増加する場合もある。

《農薬》

- ・殺虫剤は蜜蜂を入れる5日前までに使用し、受粉期間は使用しない。

《給餌》

- ・10日に1回、砂糖水1Lを給餌。（給餌費用は農家負担）

養蜂家からのコメント

蜜蜂のメンテナンスに費やしていた時間を活用できた結果、採蜜量が増加。

(5) 園芸農家における蜜蜂の適正管理技術等の実証について

- 園芸作物における花粉交配を確実にを行い、安定的な品質及び生産量を確保するためには、園芸農家と養蜂家が連携した取組(園芸農家における蜜蜂の適切な管理技術等)が重要。
- また、平常時から蜜蜂以外の代替昆虫の利用の検討を行うことが重要。
- 農林水産省では令和8年度予算(養蜂等振興強化推進)において、園芸産地で行う上記の取組等について定額で支援。



園芸産地と養蜂家の
アクションプラン作成



花粉交配用昆虫の安定
確保のための技術実証



マニュアル作成、
講習会の開催

取組①(熊本県)

花粉交配用昆虫の供給・利用や連携
体制を明確にした計画を作成。

- ・ 検討会の開催(10月)
- ・ 先進地視察(1月)

構成員：養蜂家、園芸農家、JA経済連、県

園芸農家の適正管理による蜂群の
長命化や養蜂家へのレンタル返却
時の生存率向上を図る。

(品目：イチゴ)

- ・ ウレタン巣箱保温技術実証
- ・ スズメバチ対策技術実証

養蜂家より花粉交配用蜜蜂の適正
管理の周知を行う。

- ・ 講習会の開催(10月)

取組②(大分県)

供給不足発生時における養蜂家、園
芸農家それぞれの対応を明確にした
計画を作成。

- ・ 検討会の開催(6~2月、5回)
- 構成員：養蜂家、園芸農家、JA、県

園芸農家が巣箱利用中のダニ増殖
を抑え、ダニ密度の低い巣箱の返
却を行う。

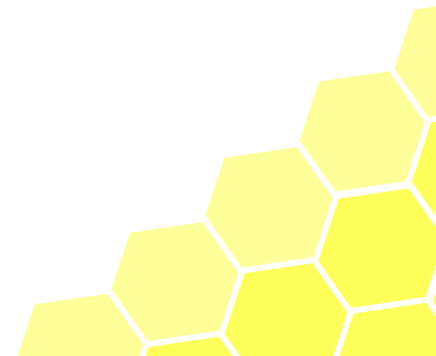
(品目：イチゴ)

- ・ ダニ剤使用方法の検証

養蜂家より花粉交配用蜜蜂の適正
管理の周知を行う。

- ・ 講習会の開催(9月)

3. 花粉交配用蜜蜂不足に備えた 体制整備について



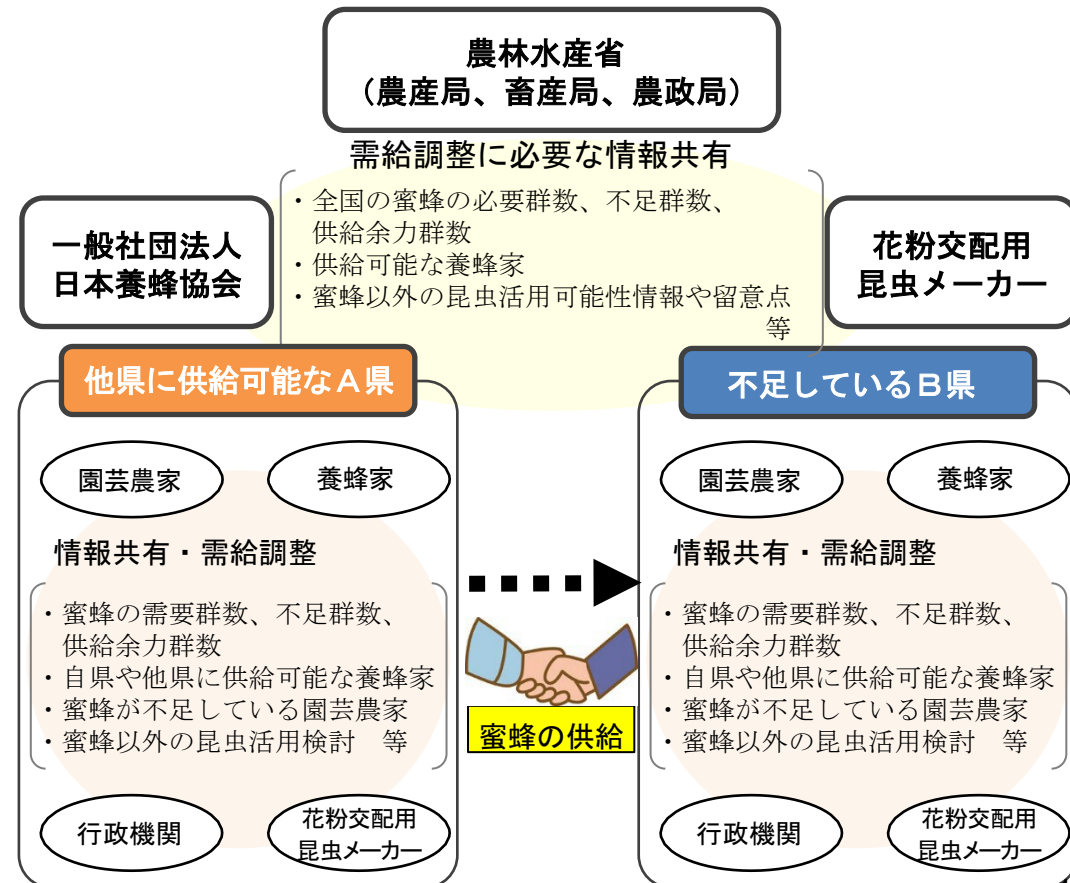
(1) 花粉交配用蜜蜂不足に備えた体制整備について

- 花粉交配用蜜蜂の安定確保を図るため、「花粉交配用蜜蜂の安定確保のための体制整備の見直しについて」(令和7年7月農産局園芸作物課長、畜産局畜産振興課長通知)等に基づき、花粉交配用蜜蜂の需給状況の実態把握及び需要期における需給調整を実施してきたところ。
- 令和8年度においても、各種調査を実施し、需給状況の実態把握の精度向上を図ることで、効果的な安定確保に向けた需給調整につなげていく。

1 令和8年度需給実態調査の実施予定

- 花粉交配用蜜蜂の供給可能群数調査
日本養蜂協会を通じて、各都道府県の養蜂組合に対し、9月と12月時点の花粉交配用蜜蜂の供給可能見込み群数を調査。
- 花粉交配用蜜蜂の販売実績調査
花粉交配用蜜蜂大手卸売事業者に対して、令和7年シーズン(令和7年10月～8年9月)における仕入・販売群数(実績)を調査。
- 花粉交配用蜜蜂の販売価格調査
日本養蜂協会を通じて、傘下の養蜂家に対し、令和7年シーズン(令和7年10月～8年7月)における販売・リース価格(実績)を調査。
- 花粉交配用蜜蜂の必要群数調査
都道府県に対し、10月以降の花粉交配用昆虫の必要群数及び確保見込みを随時調査。

2 花粉交配用蜜蜂の需給調整について

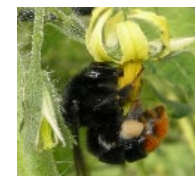


(2) 花粉交配用蜜蜂不足に対する産地での対応策

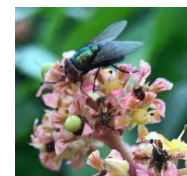
- 蜜蜂の供給が少ない状況下で、授粉を確実にを行い、園芸作物の安定的な品質及び生産量を確保するために園芸産地で取りうる対応は以下のとおり。
- 蜜蜂の早期の注文・確認
いちごにおける1～2月頃の2回目の導入や、春先の導入となる品目(すいか、メロン等)についても、養蜂家等に対し、従前よりも早期に蜜蜂の購入可否や注文等の確認を行う。
- 温度管理等のハウス内の適切な管理
養蜂家等の指導を受け、ハウス内の温度管理、農薬の取扱等を適切に行うほか、次世代の蜜蜂を育てるための給餌等により、可能な限り長く使用するように努める。
- 蜜蜂の需給調整
全国及び各都道府県で構築した「花粉交配用蜜蜂不足に備えた体制」を活用し、周辺地域内に限らず、供給余力のある養蜂家からの融通等の需給調整を実施。
- 代替昆虫(マルハナバチ、ビーフライ、ハナアブ)の利用
蜜蜂の調達が難しい可能性もあることから、蜜蜂以外の花粉交配用昆虫の利用を視野に入れ、あらかじめ各事業者に取扱方法を確認するとともに、利用する場合は、早期に注文を行う。
- 手交配の実施
上記の取組を実施しても、蜜蜂や代替昆虫が確保・利用が十分でない場合には、手交配(ホルモン剤等)を実施。



園芸農家での適切な
管理技術の取組
(恒温カバー等の
資材の利用等)



マルハナバチ



ビーフライ
(ヒロズキンバエ)



クイーンフライ
(ナミハナアブ)